

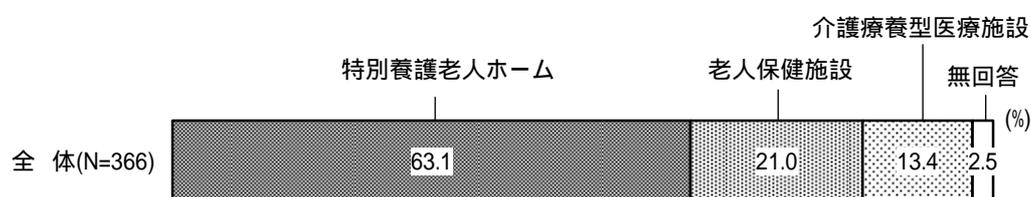
3 介護保険施設サービス利用者調査

(1) 基本属性

入所している施設の種類

入所している施設は「特別養護老人ホーム(63.1%)」が最も多く6割を占め、「老人保健施設(21.0%)」、「介護療養型医療施設(13.4%)」が続いている(図表3-1-1)。

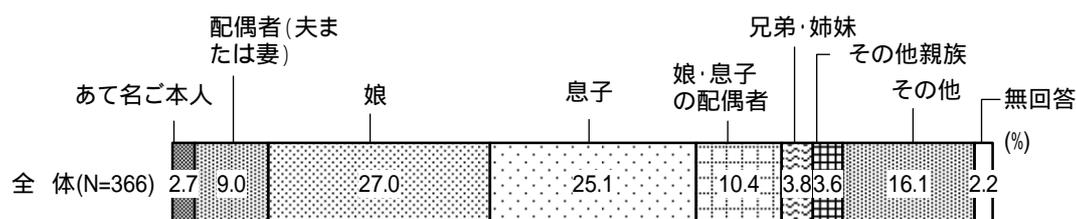
図表3-1-1 入所している施設の種類(全体)



記入者(F1)

調査票への記入者は、「娘(27.0%)」が最も多く、「息子(25.1%)」、「娘・息子の配偶者(10.4%)」が続いている(図表3-1-2)。

図表3-1-2 記入者(全体)



性別(F2)

性別は、「男性」が21.3%、「女性」が77.0%となっている(図表3-1-3)。

図表3-1-3 性別(全体)



年齢 (F 3)

年齢は、「80～84歳 (20.2%)」、「85～89歳 (22.1%)」、「90～94歳 (21.9%)」が2割程度であり、「95歳以上(12.3%)」もあわせると80歳以上が76.5%になっている (図表3 - 1 - 4)

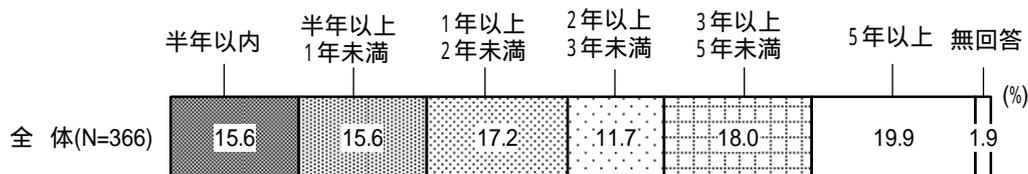
図表3 - 1 - 4 年齢 (全体)



入所期間 (F 4)

入所期間は、「5年以上 (19.9%)」が最も多く、「3年以上5年未満 (18.0%)」、「1年以上2年未満 (17.2%)」が続いている (図表3 - 1 - 5)

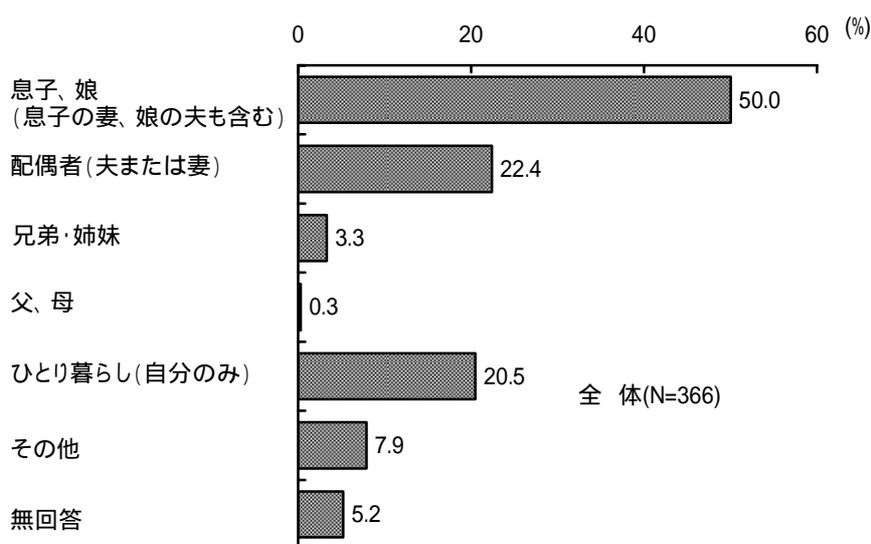
図表3 - 1 - 5 入所期間 (全体)



入所する前に同居していた人（F 5）

施設に入所する前に同居していた人は、「息子、娘（息子の妻、娘の夫も含む）（50.0%）」が最も多く、「配偶者（夫または妻）（22.4%）」、「ひとり暮らし（**自分のみ**）（20.5%）」が続いている（図表3-1-6）。

図表3-1-6 入所する前に同居していた人（全体：複数回答）



配偶者の年齢（F 5 - 1）

入居する前に同居していた人で「配偶者」と回答した人に、配偶者の年齢をたずねた。配偶者の年齢は、「80～84歳（29.3%）」が最も多く、「85～89歳（14.6%）」、「75～79歳（13.4%）」が続いている（図表3-1-7）。

図表3-1-7 配偶者の年齢
<入居前に同居者がいたと回答した人>（全体）



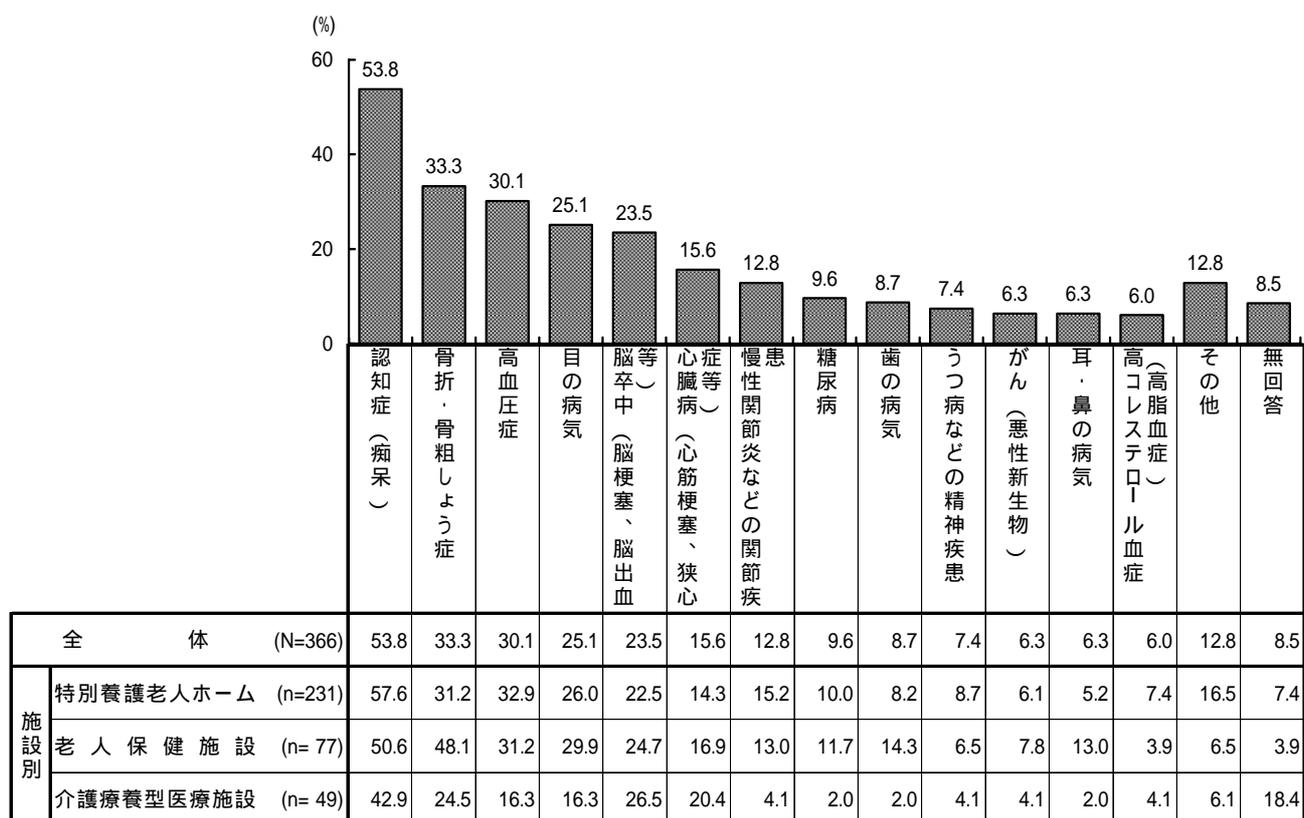
(2) 身体状況

病歴(問1)

かかったこと(または、**かかっている**)のある病気は、「認知症(痴呆)(53.8%)」が最も多く、「骨折・骨粗しょう症(33.3%)」、「高血圧症(30.1%)」、「目の病気(25.1%)」が続いている。

施設別にみると、特別養護老人ホームと老人保健施設は、「認知症(痴呆)」、「骨折・骨粗しょう症」、「高血圧症」が上位3項目となっているが、介護療養型医療施設は「認知症(痴呆)」に次いで「脳卒中(脳梗塞、脳出血等)」が多く、心臓病も他の施設と比べると多くなっている(図表3-2-1)。

図表3-2-1 病歴(全体、施設別:複数回答)

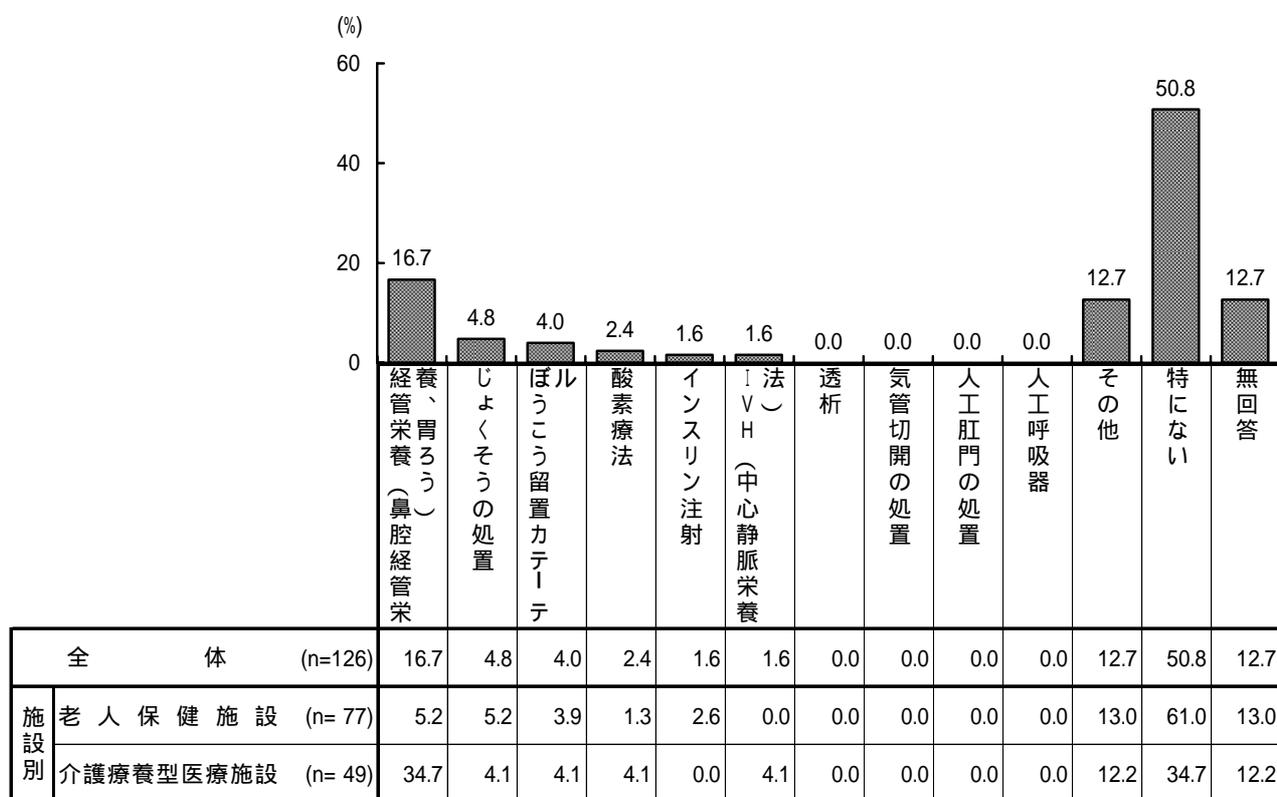


現在受けている医療処置等（問2）（特別養護老人ホーム入居者は除く）

老人保健施設・介護療養型医療施設に入所している方に、現在受けている医療処置等をうかがったところ、「特にない（50.8%）」を除くと、「経管栄養（鼻腔経管栄養、胃ろう）（16.7%）」が最も多く、「じょくそうの処置（4.8%）」が続いている。

施設別にみると、経管栄養は介護療養型医療施設では、34.7%と多くなっている（図表3-2-2）。

図表3-2-2 現在受けている医療措置等
（老人保健施設・介護療養型医療施設：複数回答）



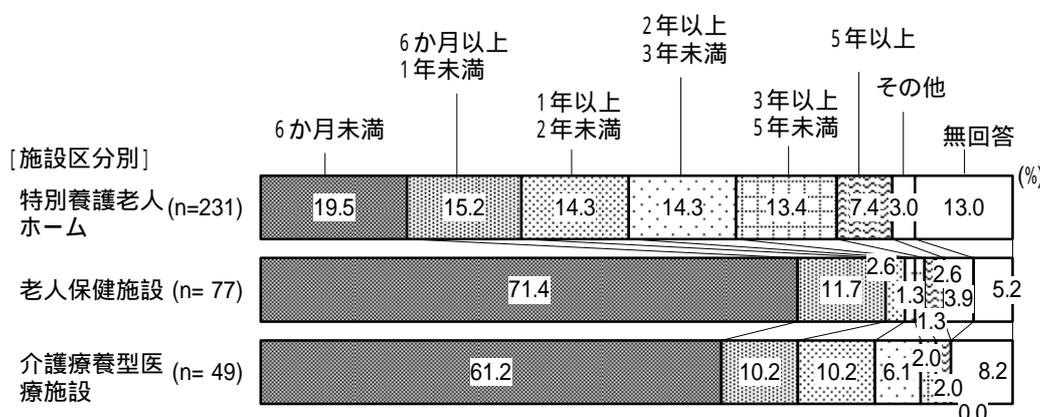
(3) 入所までの期間等

入所までの期間（問3）

現在の施設への入所が必要になってから（または希望してから）入所するまでの期間を施設別にみると、老人保健施設は「6か月未満（71.4%）」が約7割、介護療養型医療施設は「6か月未満（61.2%）」が約6割であるのに対し、特別養護老人ホームは「6か月未満（19.5%）」が2割以下と少なく、2年以上が4割弱となっている（図表3-3-1）。

これは3つの施設の位置づけと性格の違いのためと考えられる（参考図表）。

図表3-3-1 入所までの期間（施設別）



参考図表 介護保険3施設の概要

	概要（サービス視点、利用者等）
介護老人福祉施設	老人福祉法に規定される特別養護老人ホーム。 施設サービス計画に基づいて、入浴、排せつ、食事などの介護、その他日常生活上の世話、機能訓練、健康管理、療養上の世話を行う。 利用者は要介護者のみで、終身入居できるため、空きがなく待機が長い。
介護老人保健施設	在宅復帰を目指す医療機関と家庭との中間施設。 施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理のもとにおける介護・機能訓練、その他必要な医療、日常生活上の世話を行う。 利用者は病状の安定期にあり入院治療の必要はないが、リハビリテーションや看護、介護を必要とする要介護者が多い。
介護療養型医療施設	療養病床を有する病院または診療所。 施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理のもとにおける介護その他の世話、機能訓練その他、必要な医療を行う。 利用者は急性疾患の回復期にある要介護者と慢性疾患を持つ要介護者、認知症疾患の安定期にある要介護者。 現実には医療や看護を必要としない入院者が多くを占める社会的入院の問題が知れ気されており、厚生労働省は、期限を決めて他の介護保険施設や有料老人ホーム、ケアハウスなど居住系施設への転換を促す方針を出している。

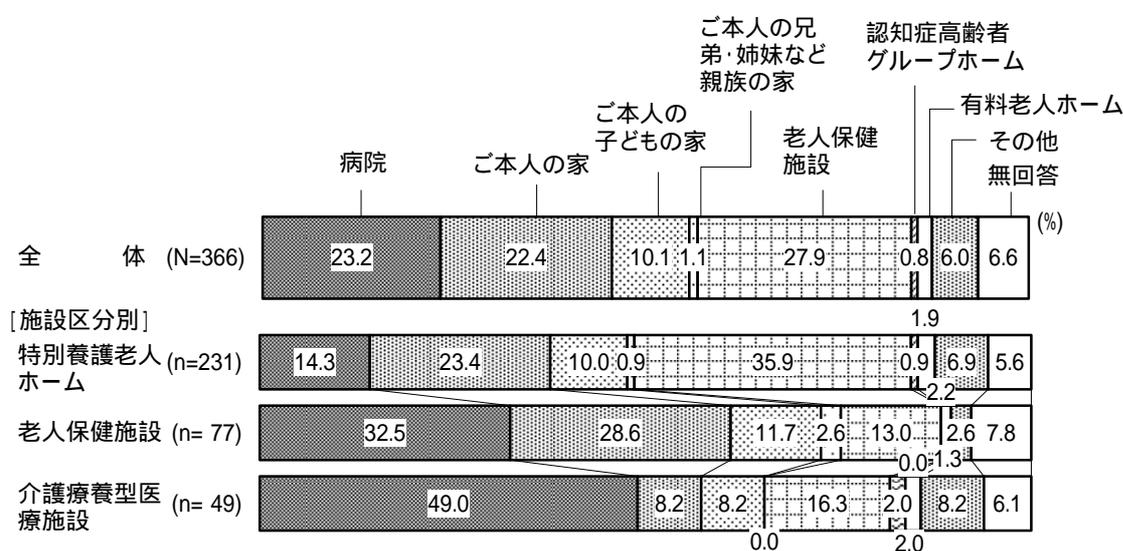
参考：介護支援専門員基本用語辞典

入所直前の住まい(または施設)(問4)

現在の施設への入所する直前の住まい(または施設)は、「老人保健施設(27.9%)」が最も多く、「病院(23.2%)」、「ご本人の家(22.4%)」、「ご本人の子どもの家(10.1%)」が続いている。

施設別にみると、特別養護老人ホームは「老人保健施設」が最も多く、「ご本人の家」が続いている。老人保健施設は「病院」、「ご本人の家」となっており、介護療養型医療施設は「病院」が49.0%と多いなど、施設でかなり異なっている(図表3-3-2)。

図表3-3-2 入所直前の住まい(または施設)(全体、施設別)



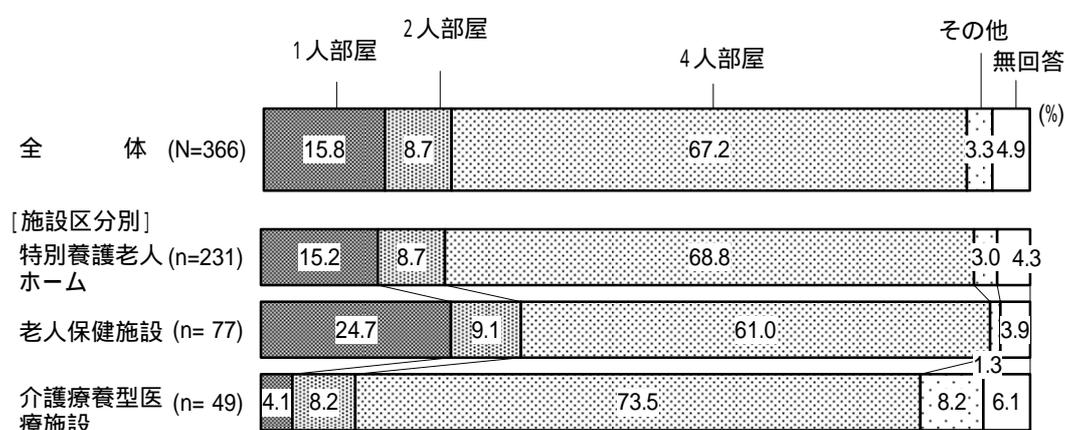
(4) 施設での生活・サービス

居室の定員 (問5)

現在の居室の定員は、「4人部屋 (67.2%)」が最も多く、「1人部屋 (15.8%)」、「2人部屋 (8.7%)」が続いている。

施設別にみると、3施設とも「4人部屋」が多い。老人保健施設は他の施設に比べ、「1人部屋」が多く、「4人部屋」が少なくなっている (図表3-4-1)。

図表3-4-1 居室の定員 (全体、施設別)



個室への希望 (問5)

居室定員が2人以上と回答した人に、個室入居の希望をたずねたところ、「希望しない (35.9%)」が最も多く、「わからない (19.7%)」、「希望する (7.2%)」が続いている (図表3-4-2)。

図表3-4-2 個室への希望 <現在の部屋が2人部屋と回答した人> (全体)

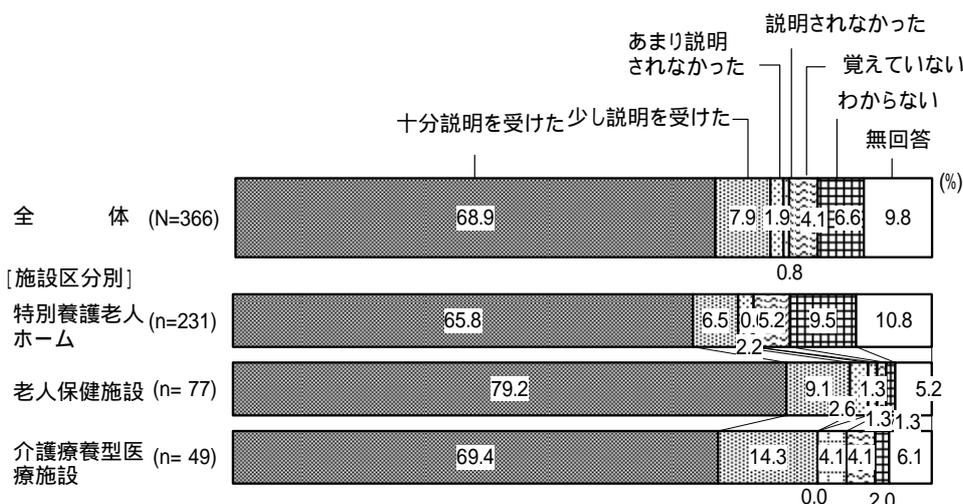


入所時の重要事項の説明に対する評価（問6）

入所時に施設の運営方針や費用などの重要事項について説明を受けたかをたずねたところ、「十分説明を受けた（68.9%）」と「少し説明を受けた（7.9%）」が多く、あわせると8割近い方が《説明を受けた》と回答している。「あまり説明されなかった」と「説明されなかった」は多くはないが、「覚えていない」と「わからない」をあわせると約1割である。

施設別にみると、老人保健施設では《説明を受けた》が9割近くになっている（図表3-4-3）。

図表3-4-3 入所時の重要事項の説明に対する評価（全体、施設別）

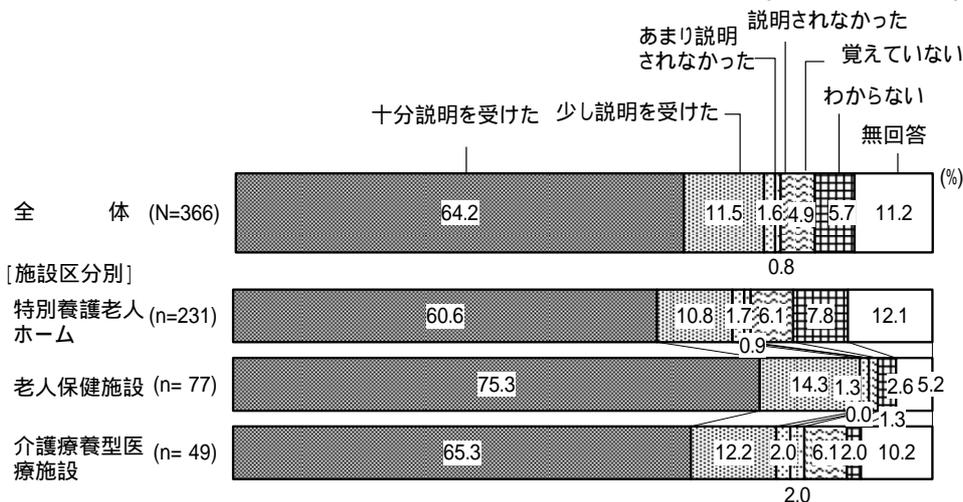


サービスの分かりやすい説明に対する評価（問7）

施設で生活するために必要となるサービスについて、詳しい説明を受けたかをたずねたところ、「十分説明を受けた（64.2%）」と「少し説明を受けた（11.5%）」が多く、あわせると8割近い方が《説明を受けた》と回答している。

施設別にみると、重要事項の説明と同様、老人保健施設では《説明を受けた》が約9割を占める（図表3-4-4）。

図表3-4-4 サービスの分かりやすい説明に対する評価（全体、施設別）

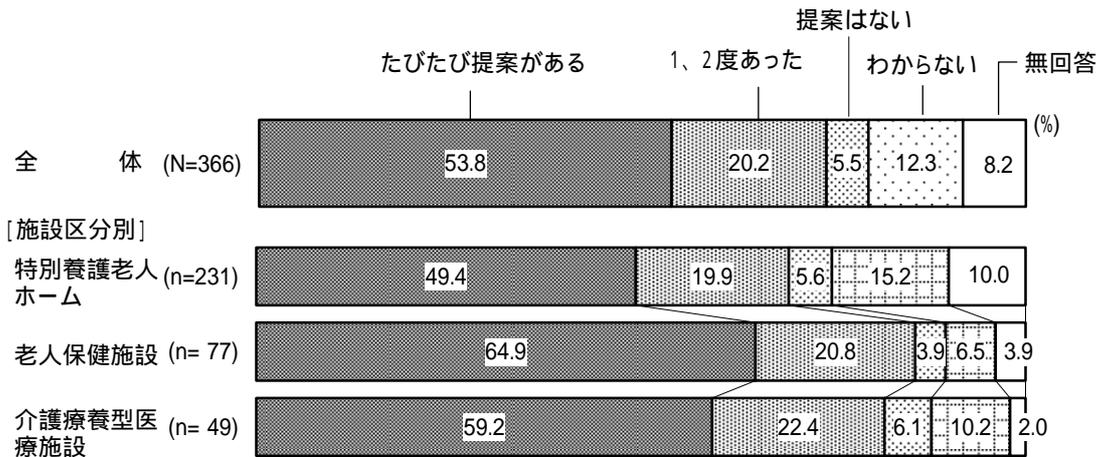


体の状況に応じたサービスの提案の有無（問8）

体の状況に応じたサービスの提案があるかどうかたずねたところ、「たびたび提案がある（53.8%）」と「1、2度あった（20.2%）」が多く、あわせると7割強の方が《あった》と回答している。

施設別にみると、「たびたび提案がある」が多いのは老人保健施設で、「1、2度あった」をあわせると、8割以上の方が《あった》と回答している（図表3-4-5）。

図表3-4-5 体の状況に応じたサービスの提案の有無（全体）

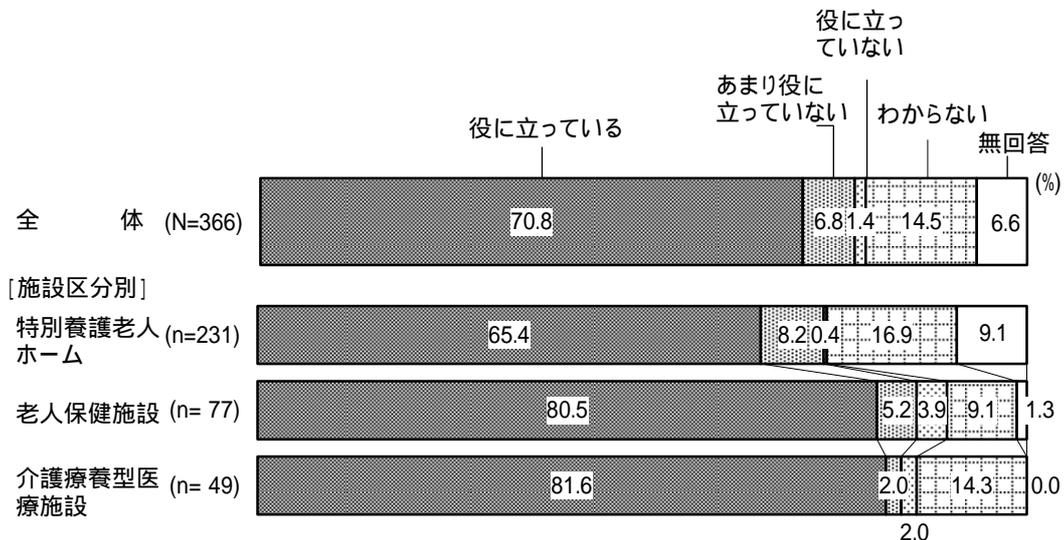


施設でのサービスの効果（問9）

施設でのサービスは、本人の体の状況の維持や改善に役立っているかどうかをたずねたところ、「役に立っている（70.8%）」が最も多く、「あまり役に立っていない（6.8%）」が続いている。

施設別にみると、老人保健施設と介護療養型医療施設では「役にたっている」が8割である（図表3-4-6）。

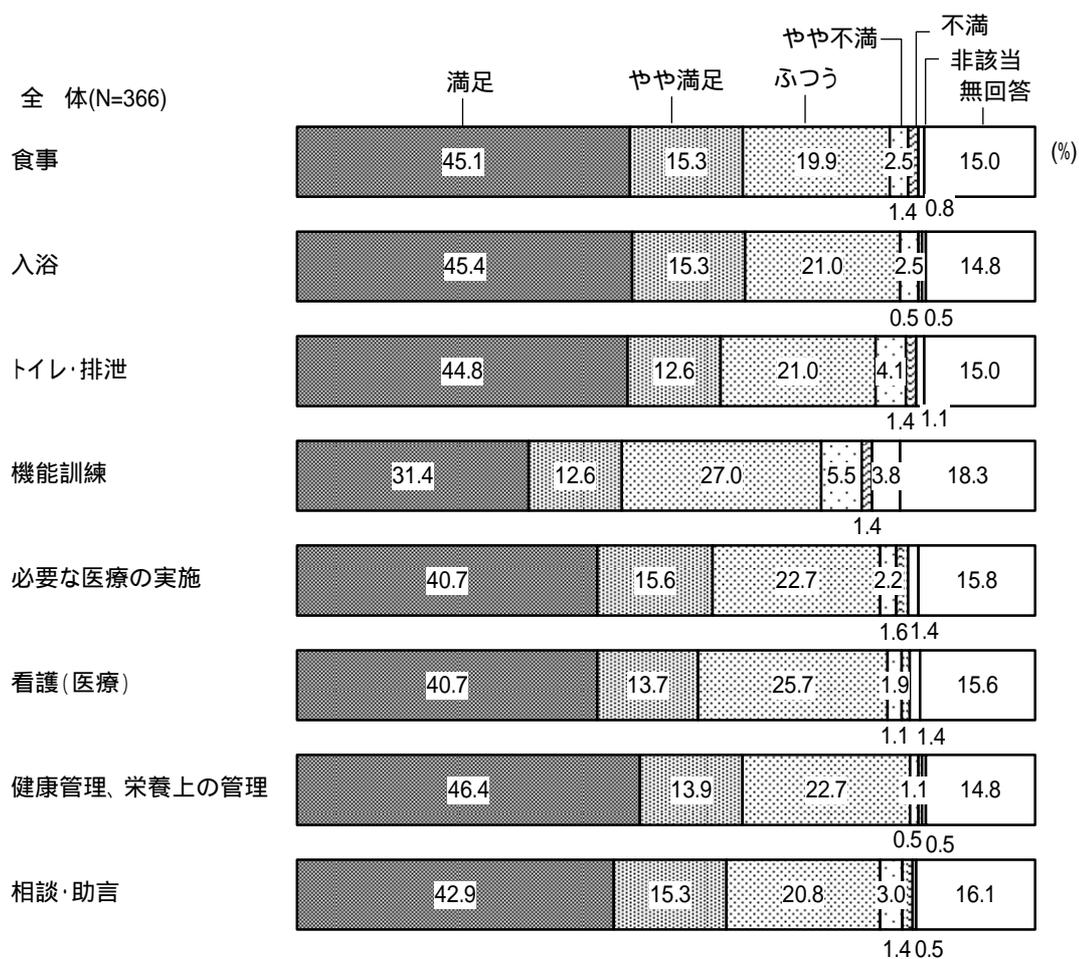
図表3-4-6 施設でのサービスの効果（全体、施設別）



サービスの満足度（問 10）

施設でのサービスの満足度（「満足」＋「やや満足」）は、「入浴（60.7%）」が最も多く、「食事（60.4%）」、「健康管理・栄養管理（60.3%）」が続いている（図表3-4-7）。

図表3-4-7 サービスの満足度（全体）



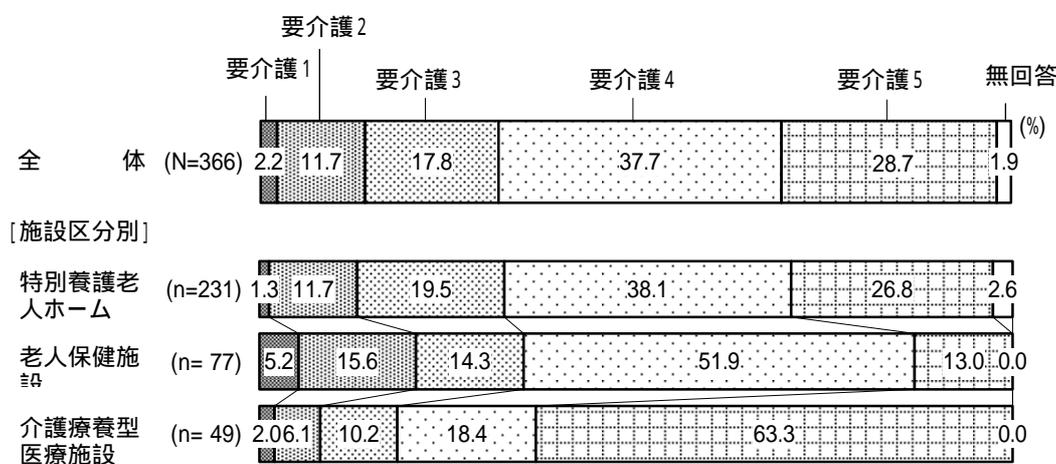
(5) 介護保険

要介護度 (問 11)

要介護度は、「要介護 4 (37.7%)」が最も多く、「要介護 5 (28.7%)」、「要介護 3 (17.8%)」が続いている。要介護 3～5 の重度の要介護者は 84.2% となっている。

施設別にみると、介護療養型医療施設は要介護 5 が最も多く 6 割を超え、要介護 4 とあわせると 8 割を超える。老人保健施設は要介護 4 が 5 割を超える (図表 3 - 5 - 1)。

図表 3 - 5 - 1 要介護度 (全体、施設別)

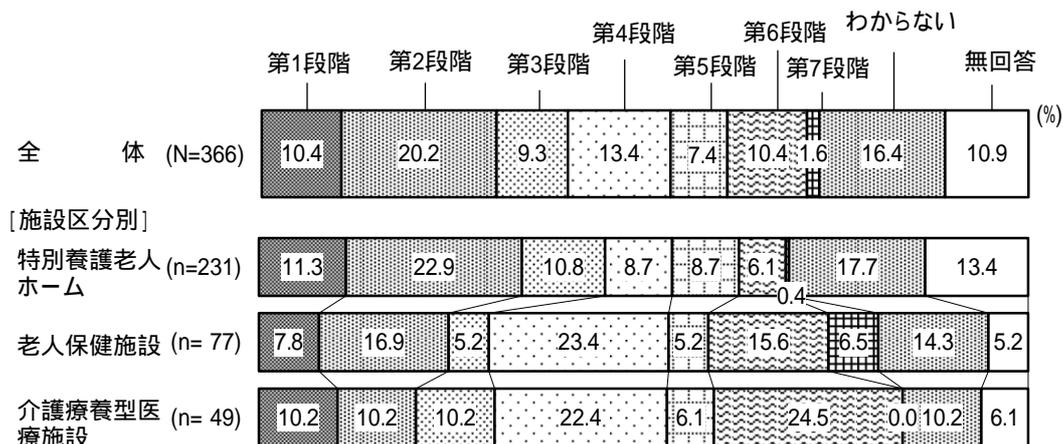


保険料段階 (問 12)

保険料段階は、「第 2 段階 (20.2%)」が最も多く、「第 4 段階 (13.4%)」が続いている

施設別にみると、特別養護老人ホームは他に比べ「第 2 段階」が多く、介護療養型医療施設は「第 6 段階」が多い (図表 3 - 5 - 2)。

図表 3 - 5 - 2 保険料段階 (全体、施設別)

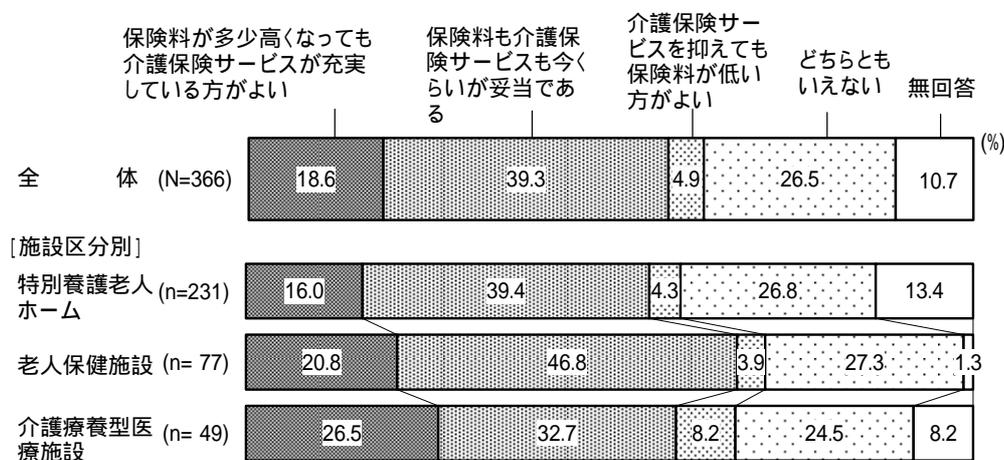


介護保険サービスと保険料についての考え方（問 13）

介護保険サービスと保険料についての考え方についてたずねたところ、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である(39.3%)」が最も多く、「どちらともいえない(26.5%)」、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい(18.6%)」が続いている。

施設別にみると、3施設とも「今くらいが妥当」が最も多い。介護療養型医療施設は他より「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」が若干多くなっている（図表3-5-3）。

図表3-5-3 介護保険サービスと保険料についての考え方（全体、施設別）

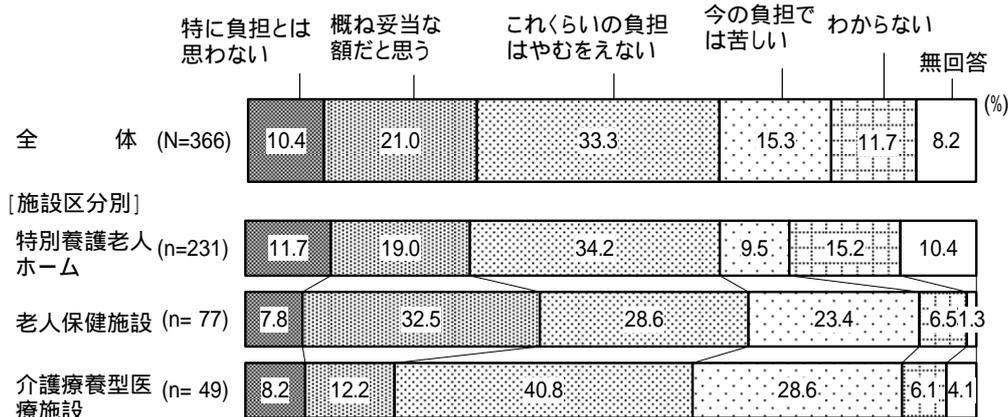


施設利用料の負担感（問 14）

施設利用料の負担感についてたずねたところ、「これくらいの負担はやむをえない(33.3%)」が最も多く、「概ね妥当な額だと思う(21.0%)」、「今の負担では苦しい(15.3%)」が続いている。

施設別にみると、老人保健施設では「今の負担では苦しい」が2割を超え、介護療養型医療施設では3割近くになっている（図表3-5-4）。

図表3-5-4 施設利用料の負担感（全体、施設別）

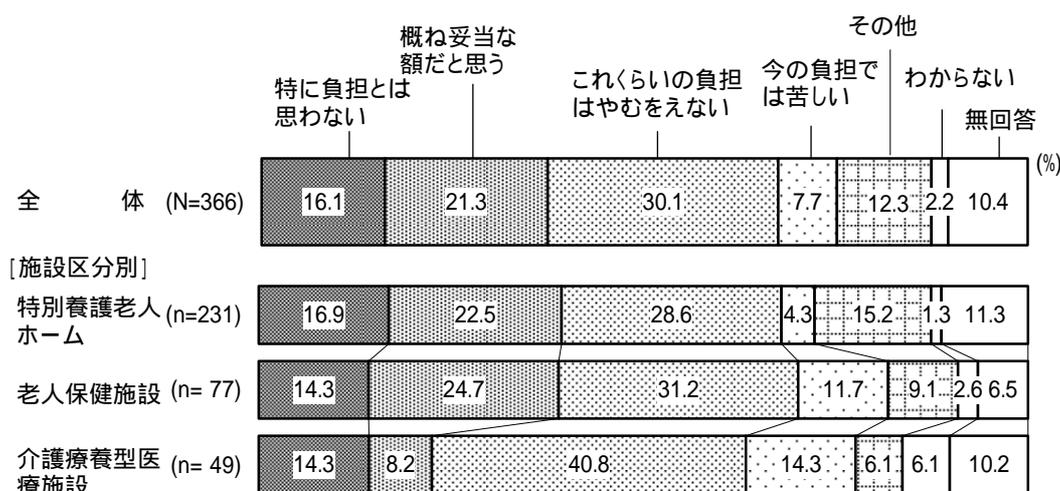


日常生活費の負担感（問 15）

利用料以外の日常生活費（消耗品など）の負担についてたずねたところ、「これくらいの負担はやむをえない（30.1%）」が最も多く、「概ね妥当な額だと思う（21.3%）」、「特に負担とは思わない（16.1%）」が続いている。

施設別にみると、老人保健施設と介護療養型医療施設では「今の負担では苦しい」が1割を超えている（図表3-5-5）。

図表3-5-5 日常生活費（消耗品など）の負担感（全体、施設別）

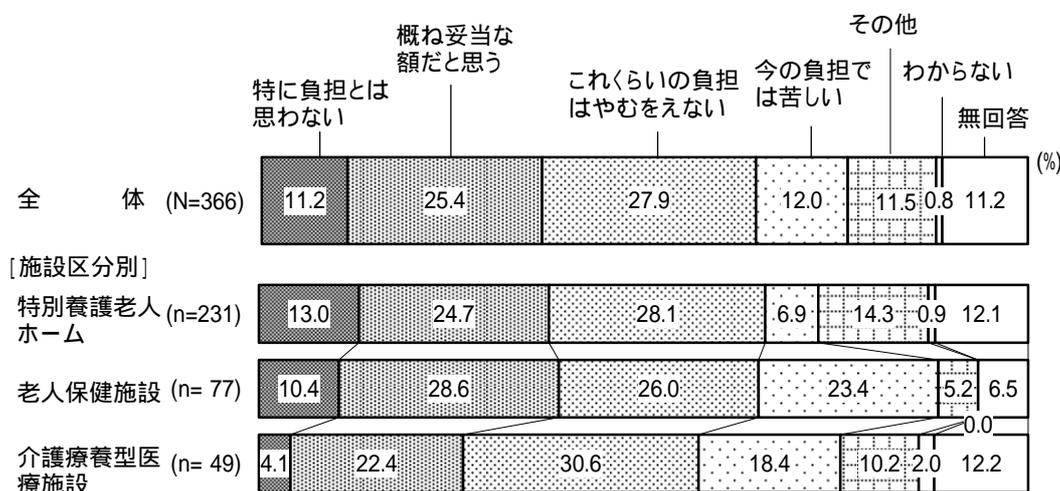


居住費と食費の負担感（問 16）

居住費と食費の負担感についてたずねたところ、「これくらいの負担はやむをえない（27.9%）」が最も多く、「概ね妥当な額だと思う（25.4%）」、「今の負担では苦しい（12.0%）」が続いている。

施設別にみると、老人保健施設と介護療養型医療施設では「今の負担では苦しい」が約2割である（図表3-5-6）。

図表3-5-6 居住費と食費の負担感（全体、施設別）

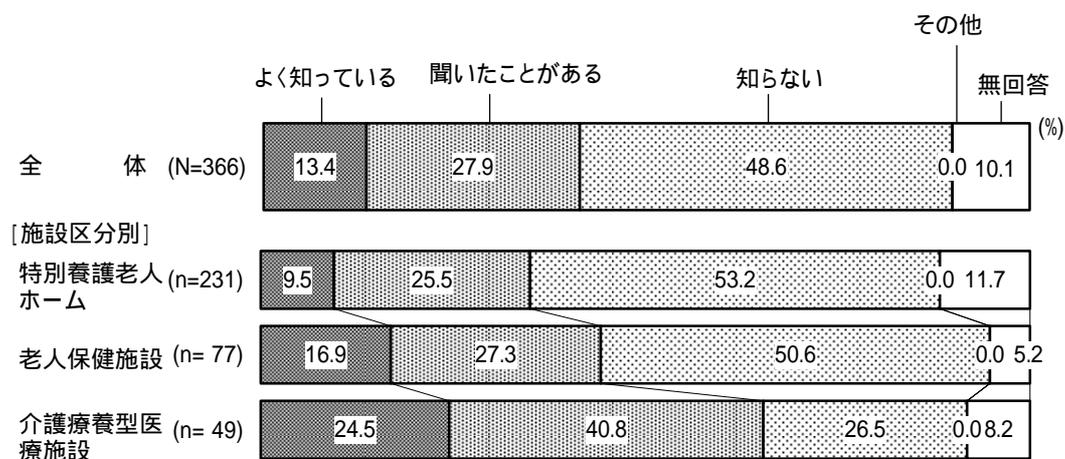


介護療養型医療施設廃止の周知状況（問 17）

平成 23 年度末に介護療養型医療施設を廃止するという厚生労働省の方針についてたずねたところ、「知らない（48.6%）」が最も多く、「聞いたことがある（27.9%）」、「よく知っている（13.4%）」が続いている。

施設別にみると、介護療養型医療施設での周知状況は他よりは高いが、「知らない」の回答が 26.5%であり、4 人に 1 人は周知されていないと状況となっている（図表 3 - 5 - 7）。

図表 3 - 5 - 7 介護療養型医療施設廃止の周知状況（全体、施設別）

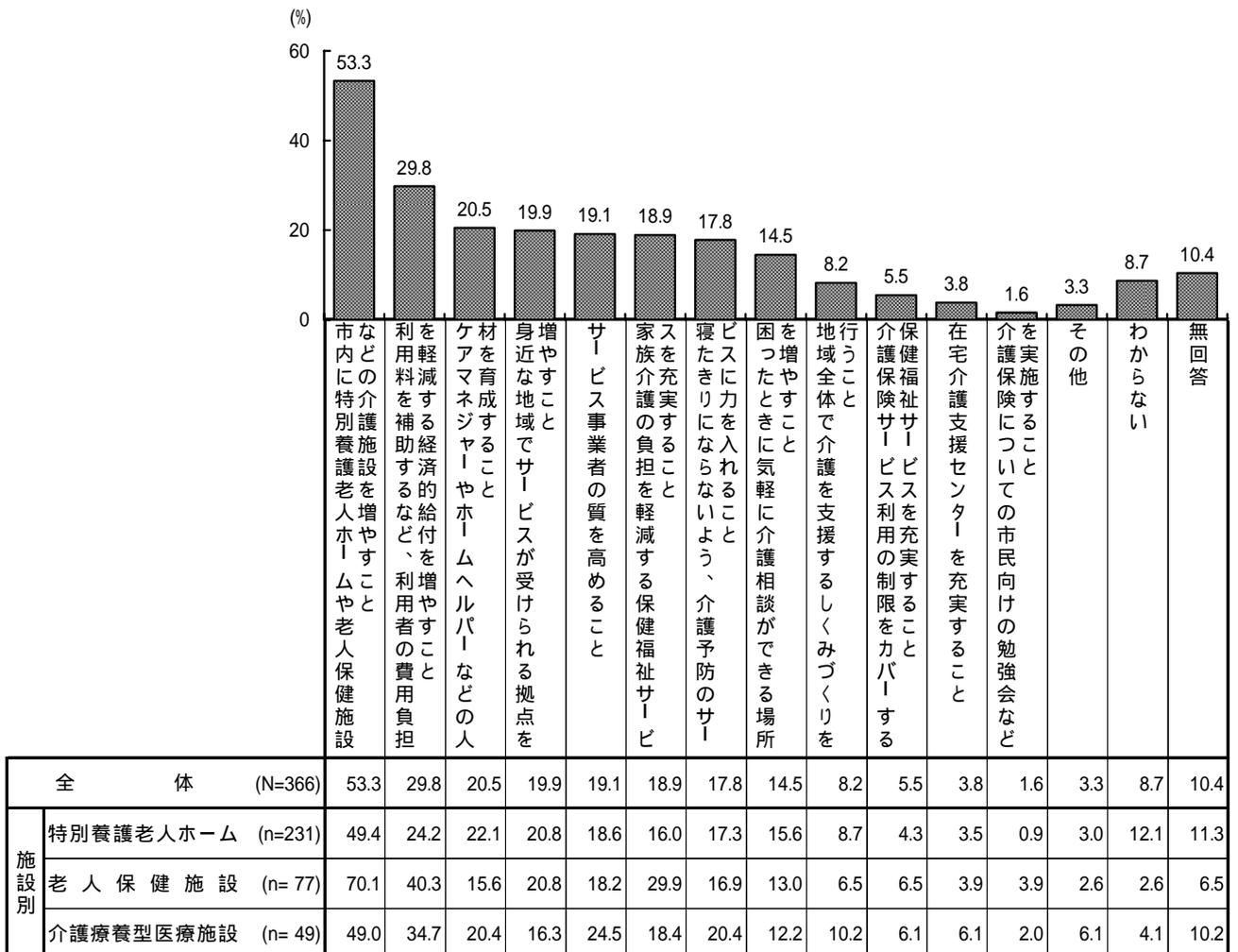


介護保険制度をよりよくするため市が力を入れるべきこと（問18）

介護保険制度をよりよくするため、市が力を入れるべきことは、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（53.3%）」が最も多く、「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（29.8%）」、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること（20.5%）」、「身近な地域でサービスが受けられる拠点を増やすこと（19.9%）」が続いている。

施設別にみると、3施設とも上位2つは、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」と「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」が上位2つであるが、3番目は施設で異なり、特別養護老人ホームは「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」、老人保健施設は「家族介護の負担を軽減する保健福祉サービスを充実すること」、介護療養型医療施設では「サービス事業者の質を高めること」となっている（図表3-5-8）。

図表3-5-8 介護保険制度をよりよくするため、市が力を入れるべきこと
（全体、施設別：複数回答（3つまで））



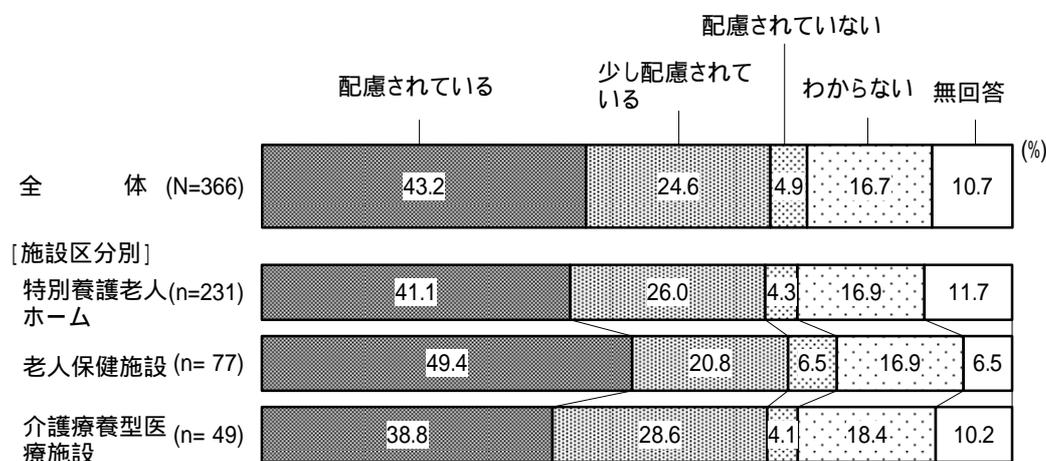
(6) 高齢者の権利擁護

施設でのプライバシーの配慮の有無 (問 19)

施設でのプライバシーの配慮は、「配慮されている(43.2%)」が最も多く、「少し配慮されている(24.6%)」、「わからない(16.7%)」が続いている。「配慮されている」と「少し配慮されている」をあわせると全体の約7割を占める。

施設別にみると、3施設とも「配慮されている」と「少し配慮されている」をあわせた割合は全体の7割近くになるが、老人保健施設では他より「配慮されている」が多くなっている(図表3-6-1)。

図表3-6-1 施設でのプライバシーの配慮の有無(全体、施設別)

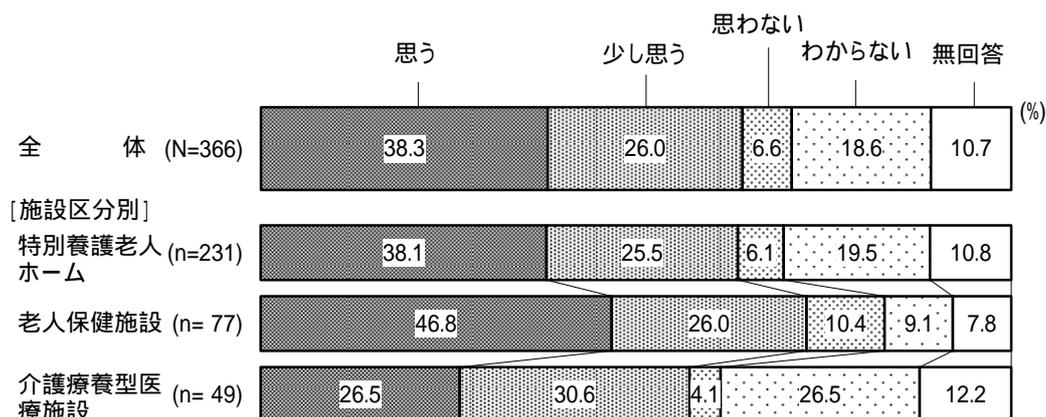


施設での本人の意向や希望の尊重の有無 (問 20)

施設での本人の気持ちや希望が尊重されているかについては、「思う(38.3%)」が最も多く、「少し思う(26.0%)」と合わせると64.3%となる。

施設別にみると、尊重されていると思う度合い(「思う」と「少し思う」を合わせた割合)は老人保健施設が他よりも高く、逆に介護療養型医療施設では最も低くなっている(図表3-6-2)。

図表3-6-2 施設での本人の意向や希望の尊重の有無(全体、施設別)

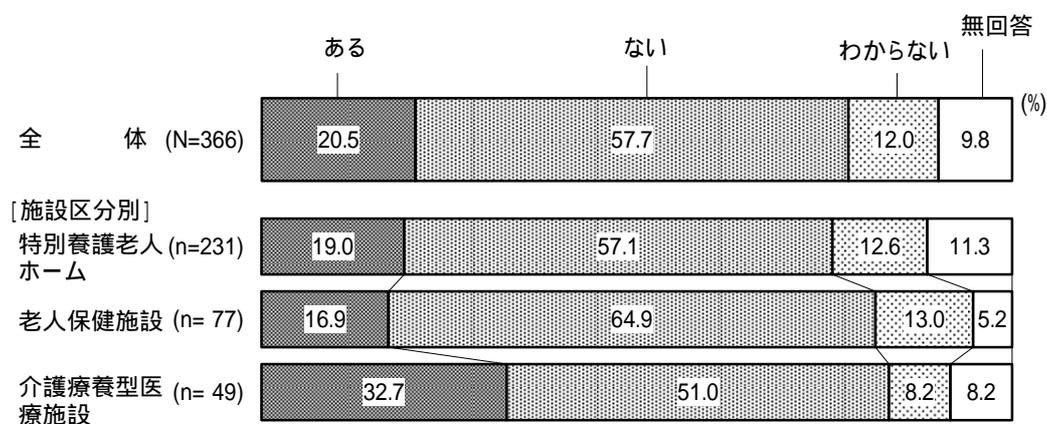


施設でのからだの動作制限の有無（問 21）

施設でのからだの動作制限の有無は、「ない（57.7%）」が6割弱、「ある（20.5%）」が約2割となっており、「ない」と回答した人の割合は「ある」と回答した人の割合の3倍近くである。

施設別にみると、介護療養型医療施設では「ある」と回答した人の割合が他より高くなっている（図表3-6-3）。

図表3-6-3 施設でのからだの動作制限の有無（全体、施設別）

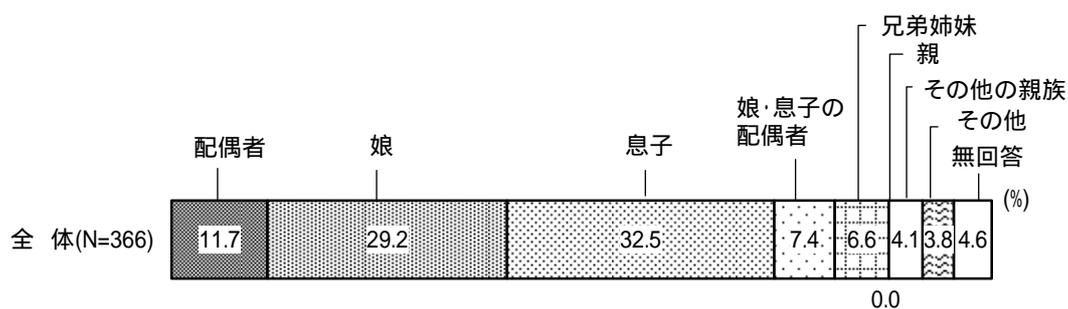


(7) 介護者の状況・意向

主たる連絡先 (問 22)

主たる連絡先は、「息子 (32.5%)」が最も多く、「娘 (29.2%)」、「配偶者 (11.7%)」が続いている (図表 3 - 7 - 1)。

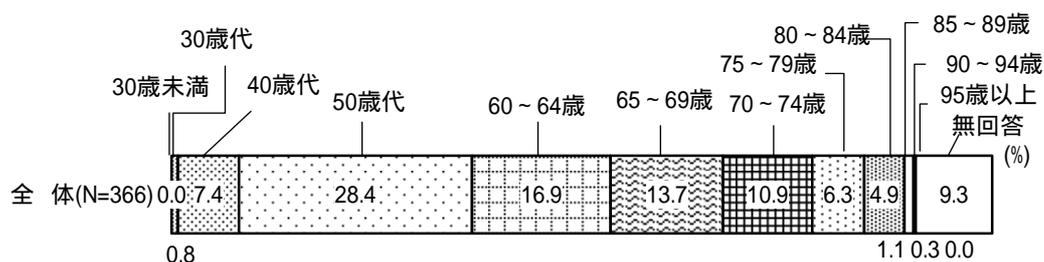
図表 3 - 7 - 1 主たる連絡先 (全体)



主たる連絡先の人年齢 (問 23)

主たる連絡先の人年齢は、「50歳代 (28.4%)」が最も多く、「60~64歳 (16.9%)」、「65~69歳 (13.7%)」が続いている (図表 3 - 7 - 2)。

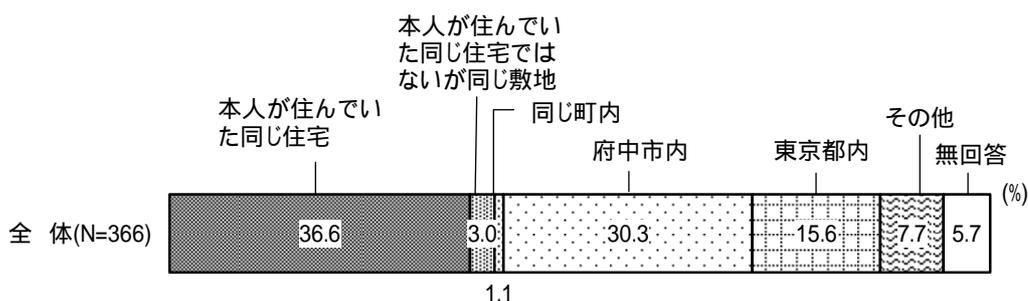
図表 3 - 7 - 2 主たる連絡先の人年齢 (全体)



主たる連絡先の人の居住地（問 24）

主たる連絡先の人の居住地は、「本人が住んでいた同じ住宅（36.6%）」が最も多く、「府中市内（30.3%）」、「東京都内（15.6%）」が続いている（図表3-7-3）。

図表3-7-3 主たる連絡先の人の居住地（全体）

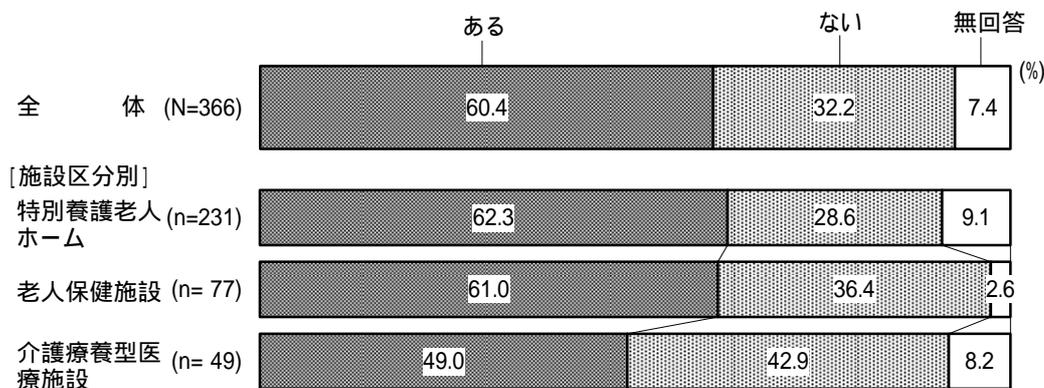


認知症と診断されたことの有無（問 25）

認知症と診断されたことの有無は、「ある（60.4%）」が約6割、「ない（32.2%）」が約3割となっており、「ある」と回答した人の割合は、「ない」と回答した人の割合の2倍近くである。

施設別にみると、介護療養型医療施設では「ある」と回答した人の割合が他よりも低い（図表3-7-4）。

図表3-7-4 認知症と診断されたことの有無（全体）

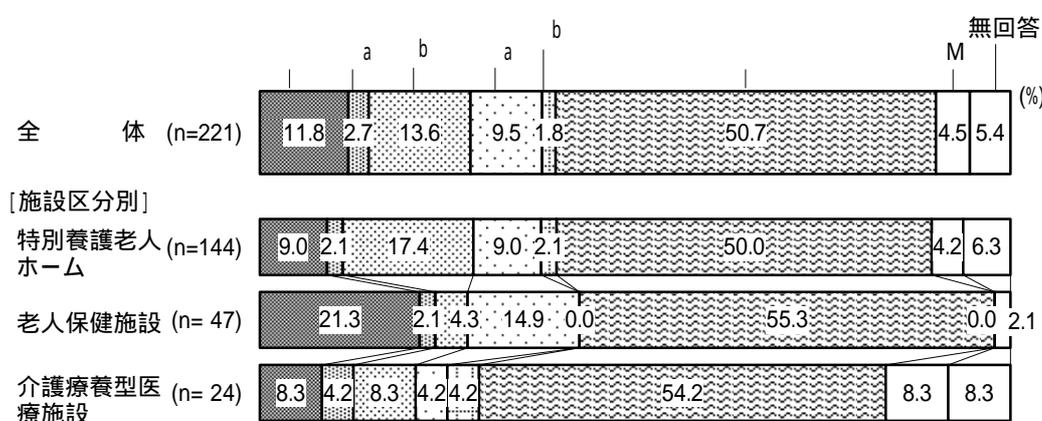


認知症の症状について（問 25 - 1）

認知症と診断されたことが「ある」と回答した人に対して、その症状についてたずねた。症状は、「 a（50.7%）」が5割を超え最も多く、「 b（13.6%）」、「 c（11.8%）」が続いている。

施設別にみると、特別養護老人ホームでは「 b」が他よりも多く、老人保健施設では「 a」が他よりも多くなっている（図表 3 - 7 - 5）。

図表 3 - 7 - 5 症状について（全体）
 < 認知症と診断されたことがあると回答した人 >（全体）



認知症の症状について

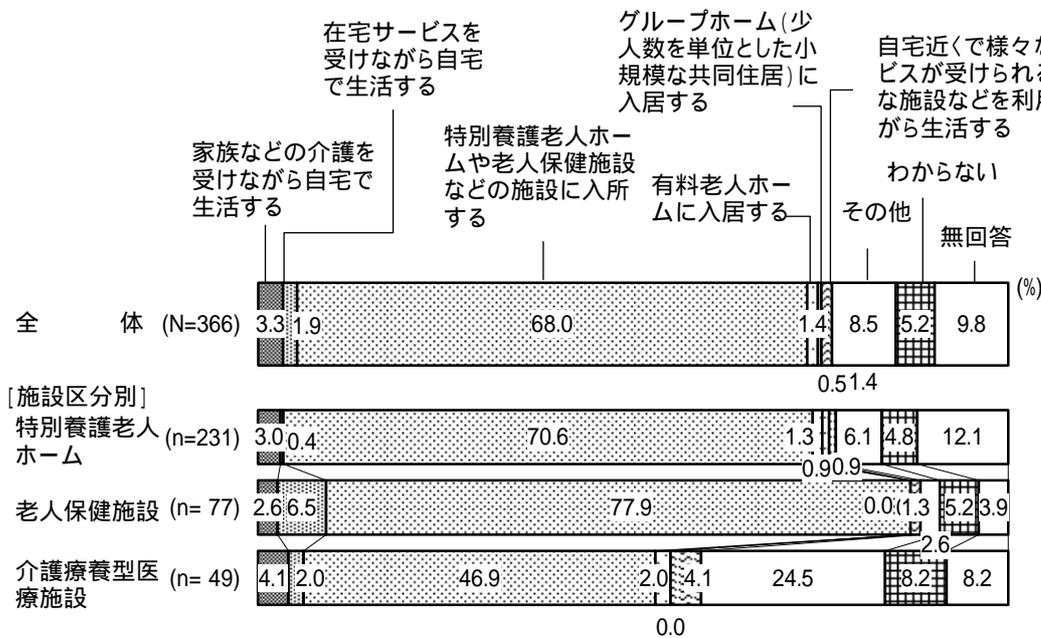
状態		日常生活自立度
物忘れをすることもあるが、日常生活は施設内及び社会的にほぼ自立している		
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	（施設外）たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つなどの状態がみられる	a
	（施設内）服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができないなどの状態がみられる	b
日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが時々見られ、介護が必要とされる	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない・時間がかかる	a
	夜間を中心として	b
	やたらに物を口に入れる、徘徊、失禁、大声、火の不始末、不潔な行為、性的行動などの症状が見られる	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする
著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする（妄想、興奮、自傷、他害等の精神症状に起因する問題行動が継続する状態など）		M

介護されている人の今後の生活の場所（問26）

今後本人が生活するのによい場所は、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する（68.0%）」が約7割を占め、最も多くなっている。それ以外の項目はすべて1割未満となっているが、そのなかで多いのは、「わからない（5.2%）」、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する（3.3%）」などである。

施設別にみると、介護療養型医療施設では「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所する」が他よりも少なく、特別養護老人ホーム、老人保健施設が7割を超えるのに対し、介護療養型医療施設では5割に満たない（図表3-7-6）。

図表3-7-6 今後本人が生活するのによい場所（全体）

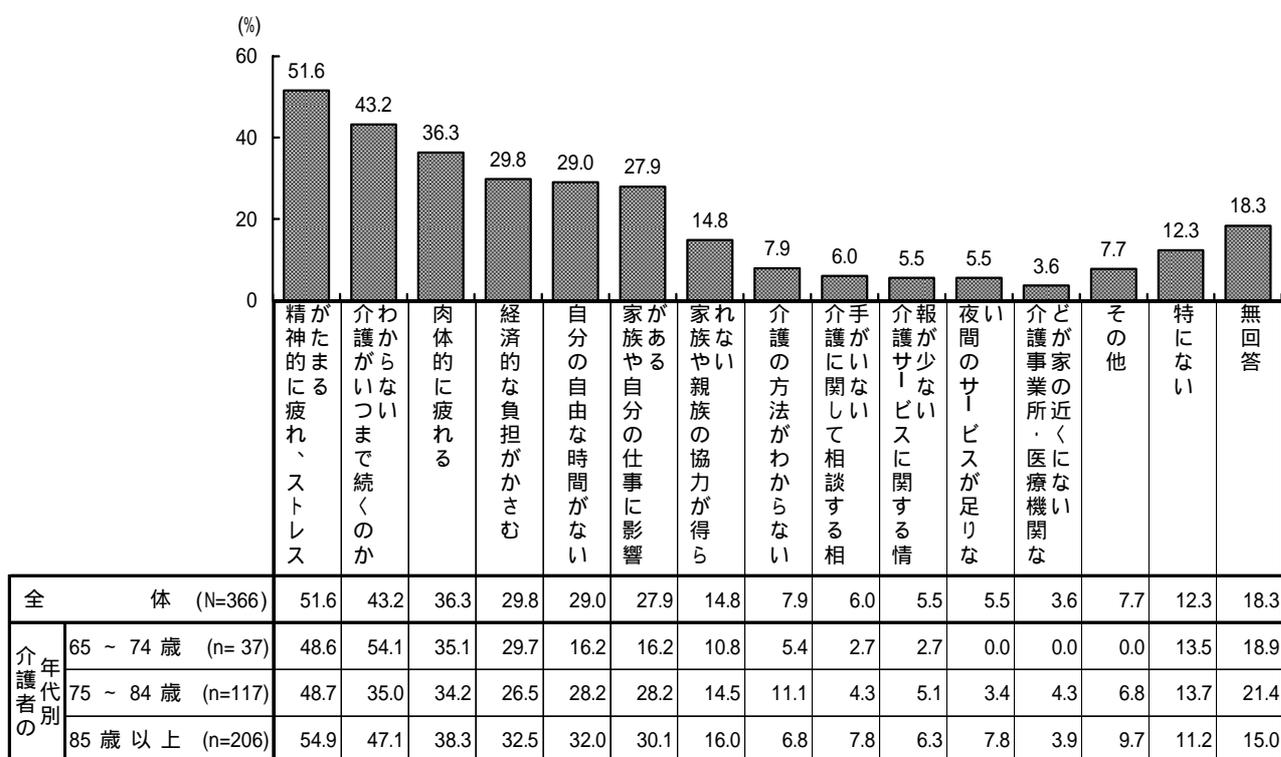


介護の問題点（問 27）

介護していくうえでの問題点は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる（51.6%）」が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない（43.2%）」、「肉体的に疲れる（36.3%）」が続いている。

年代別にみると、85歳以上は「精神的に疲れ、ストレスがたまる」が他より多く、65～74歳は「介護がいつまで続くのかわからない」が他より多い。また「肉体的に疲れる」は各年代であまり差がない（図表3-7-7）。

図表3-7-7 介護していくうえでの問題点（全体：複数回答）



(8) 介護者の意見・市への要望等(問28)

介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、市への意見・要望・提案について、自由記述形式でたずねたところ、全体で122件の回答があった。以下、主なものを掲載する。また、記入者が「本人」以外の場合は【 】内に本人との関係が書かれている。

施設不足・施設不足による遠距離施設への入所について：23件

- ・ 特別養護老人ホームを希望していますが空きがなく、しかたなく老人保健施設を利用しているが、耳が聞こえない理由で個室になってしまい、経済的に底をつきつつある。遠いところへはやりたくない。もっと市内に老人保健施設、特別養護老人ホームを作って欲しい。(老人保健施設、女性、95歳以上)【娘】
- ・ 老人保健施設も3か月で移動の声がかかるが、なかなか次の施設のベッドが空かず頭を痛めている。市内はベッドがいっぱいで入れず、今は市外の老人保健施設に入所中である。特別養護老人ホームも数件申請しているが、何年も先だと言われた。施設の移動も精神的に疲れてきた。(老人保健施設、女性、75~79歳)【娘・息子の配偶者】
- ・ グループホームといわれる施設を町内に1ヶ所以上開設して欲しい。(特別養護老人ホーム、女性、70~74歳)【娘】
- ・ 特別養護老人ホームに入所できるまで老人保健施設を転々としていた時の本人及び介護者の精神状態はかなり不安定だったと思う。もう少し積極的に施設を増やしてもらいたい。(特別養護老人ホーム、女性、75~79歳)【娘】
- ・ 現在遠距離の特別養護老人ホームに入所中だが、なかなか面会に行きあげられなくて、とても淋しい思いをさせていることがつらい。市内にもっと特別養護老人ホームがあればと思う。(特別養護老人ホーム、女性、95歳以上)【娘・息子の配偶者】
- ・ 遠距離のため通うのが大変である。間を見て自分の病院通いもあるので、気持ちのゆとりを持ってない。子供にSOSを出している。(介護療養型医療施設、男性、75~79歳)【配偶者(夫または妻)】

介護保険に対する不満・要望：17件

- ・ 全国的にも府中市でも、現在のように高齢化社会になることは明確になっていたはずである。今の日本を支えてきた高齢者から様々な形で負担を増していく方針、実行はおかしいと思う。一番びっくりしたのは居住費食費の10割負担である。(老人保健施設、女性、90~94歳)【娘】
- ・ 介護療養型医療施設の廃止方針については全く知らなかったが、核家族化の進む中一人暮らしや老々介護という実態に逆行するもので受け入れられない。自助努力で置かれた立場を改善できるのは限られた年齢までであり、当該施設に代替するものがニーズに応えられる程充実が為されれば問題ないが、何の手当てもないまま放置されるのでは、本人もさることながら家族にとっても大変な負担である。(特別養護老人ホーム、女性、85~89歳)【息子】

- ・ 何か病名のつく病気がなければ施設に入れず、お金がない人は有料のところにも入れず、子供との同居もかなわない、そんな老人があふれている。行き場のない老人の施設やケアハウス、特別養護老人ホームも要介護度4、5と要介護度1～3の2種類にわけると、要介護度の軽い老人への対策を切に望む。(老人保健施設、男性、90～94歳)【娘】
- ・ 事業者の採算が取れる市立の有料老人ホーム(住居、介護施設複合型)にし、持てる者から可能最低限の資金を募り、“おんぶにだっこ”の福祉の限界を変えてゆかなければと常々考えている。(特別養護老人ホーム、女性、95歳以上)【娘】

感謝・満足：17件

- ・ 現在の施設では若者が良く動いてくれ、メンバーの入れ替わりも少なく、病状に対してアドバイスが早く、安心して眠ることができる。とても感謝している。(老人保健施設、女性、85～89歳)【娘】
- ・ 近所の施設なのでとても良いと思っている。急病のときでも早い対応ができ、普段でもちよくよく顔を見ることができている。要介護度5だが、本人にとっては穏やかに生活ができている。(特別養護老人ホーム、女性、80～84歳)【娘・息子の配偶者】
- ・ 毎年夏の時期のみ数か月に渡って入所のサービスを受けている。自宅では温度差が激しく、施設にいと心配なく過ごせ、体への負担を感じなくなり、有難く思う。普段はかなり元気なので、今のやる気を失わない為に、音楽を楽しんだり、手芸・習字などのプログラムを今後も充実させていただいたりして、仲間との談話も楽しめていけたらいいと思う。(老人保健施設、女性、80～84歳)

人員不足への不満、人材育成・待遇改善の要望：11件

- ・ 介護に携わっている人の待遇をよくして欲しい。そして人員を増やし、ベテランを大事にし、話し相手になってくれる人の必要性を重視すべきである。(特別養護老人ホーム、女性、75～79歳)【娘】
- ・ ヘルパーさんの賃金が安いと思う。賃金がある程度高ければヘルパーさんの数ももっと多くなると思う。ヘルパーさんの数が少ないと思う。(特別養護老人ホーム、女性、90～94歳)【娘・息子の配偶者】
- ・ 老人保健施設から特別養護老人ホームに移ったばかりだが、老人保健施設の様な明るい雰囲気はなく、入所者が要介護度4～5の方々なので、お互い意思の疎通もなく、毎日ぼんやり過ごしているように見える。デイサービスに通っている人たちと同じようにもう少し趣味を生かしてあげられればいいと感じた。そのためには、ヘルパーさんの人数がもっと必要である。(特別養護老人ホーム、女性、85～89歳)【その他親族】

次の施設への入所の不安・スムーズな入所の希望：11件

- ・ 府中市民であれば府中市にある介護老人福祉施設に申し込んだら遅くとも3か月～6か月以内には入所できるように整備してもらいたい。(介護療養型医療施設、女性、95歳以上)【息子】

- ・ 現在入所2施設目になる。1施設目の入所期間は1年と3か月だった。現在のところは1年と5か月になる。いつ出るようにと言われるかビクビクしている。特別養護老人ホームを申し込んでいるが、いつ頃入れるのか、忘れられているのではないのかと不安な毎日である。時々声掛けをして下さるようお願いしたいと思っている。(老人保健施設、女性、85~89歳)【娘】
- ・ 今のところは老人保健施設にしばらく預かってもらう状況で良いのだが、これからが心配である。状態がもっと悪くなると預かってもらえないのではと不安である。スムーズに施設を利用できるようにして欲しい。(老人保健施設、女性、80~84歳)【娘】
- ・ 核家族化が進み、誰の協力も得られない介護者の援助、施設の提供がすみやかに、気軽に受けられる事を望む。(特別養護老人ホーム、男性、80~84歳)【娘】
- ・ 数多くの特別養護老人ホームを申し込むも、2年近くにもなるが入所できず、ホームからも何の連絡もない。いつまで待つのか不安である。(老人保健施設、女性、85~89歳)【息子】

介護の苦勞、実態：9件

- ・ 本人のためには、家庭で世話をしあげるのが一番だと思し、自分自身にとっても悔いが残らないと思う。しかし、幼稚園生や小学生の親にとって、子育てと介護の両立は不可能で、同居は難しいように思う。(介護療養型医療施設、女性、95歳以上)【その他親族】
- ・ 本人の年金だけでは施設での生活が成り立たない。かといって、自宅での生活ではお互いに無理である。なんとも情けないことである。(特別養護老人ホーム、女性、80~84歳)【娘】
- ・ 本人に承諾なしで特別養護老人ホームに入所させ、義母に申し訳ない気持ちがあるのと、どうしているか気がかりである。そんな理由で面会もできず、遠くから様子を見させていただいている。家族としては、時々好物を届けながら、苑での様子を聞いてあげたいのだが、現実は無理である。いまさら家に帰りたと言われても、認知症の母の自宅での介護はしんどい。できれば会合や催し物があるときには、家族の代わりに出席して母の様子や言い分を聞いてきて下さる方がいればお願いしたいと思っている。(特別養護老人ホーム、女性、90~94歳)【娘・息子の配偶者】

施設でのサービス内容、介護態度等への不満・要望：8件

- ・ 以前、府中市内の老人保健施設でお世話になっていたが、その施設の職員の中に態度の悪い人が何人かいた。どなる、大きい声でしかりつける、またつねるなど。入所している方々の顔つきには表情がなく、萎縮して感じられた。そこには老人に対する思いやり、尊敬、気遣い、やさしさなどは感じられなかった。職員に対する教育、指導、トレーニング等を考えていただきたいと感じた。(介護療養型医療施設、女性、85~89歳)【娘】
- ・ 市内の老人施設に短期入所で何か所かお世話になったが、あまりに人権を無視している施設があり、怒りさえ覚えた。施設側が楽なように、管理しやすいようなシステムになっており、入居者の快適さはまったく感じられなかった。市はアポなしに、一斉に施設を訪問して、特に認知症の人達が施設内でどんな生活をしているのかを生で見たいと思う。

(特別養護老人ホーム、女性、90～94歳)【娘】

- ・「世話していただく」に甘えすぎの気がする。個人差はあるが、自分でできることは参加する機会を多く与えて欲しい。人の力になることを好む人が多い。(特別養護老人ホーム、女性、95歳以上)【息子】

相談窓口の充実・質の向上、情報提供の要望：7件

- ・介護を受けることになった時、最初の相談者により家族の心の負担が変わることを知っていて欲しい。最初の窓口で対応をする職員にはスペシャリストを置いていただきたい。(老人保健施設、男性、70～74歳)【娘】
- ・ケアマネジャーの方が地域担当でいるのだが、介護認定の時の調査時にしかお目にかかれていない。もっと多く交流ができるようになったらと思っている。老人施設の情報を知ってもわからない状態だった。老人全員が入所できない現状に対して、ある程度アドバイスができるくらいの知識と情報を持っていて欲しいと思う。(特別養護老人ホーム、女性、85～89歳)【娘】
- ・安心して介護ができる総合の相談窓口や専門部門を作っていただきたい。(老人保健施設、男性、75～79歳)【配偶者(夫または妻)】
- ・在宅介護を行っている家族に、例えば食事のメニュー、レシピ等の栄養学的見地及び病気予防の観点からの摂取制限等の具体的な提案があると、食事を作る側も食べる側もメリットが多いのではないかと。(特別養護老人ホーム、女性、95歳以上)【その他親族】

受け入れ体制、受け入れ条件(難病など)への不満：6件

- ・胃ろうのため、特別養護老人ホームへの入所は不可能と言われている。胃ろうでも入所できるようにして欲しい。(老人保健施設、女性、80～84歳)【配偶者(夫または妻)】
- ・高齢の夫婦がふたり一緒に施設には入れないか。(特別養護老人ホーム、男性、95歳以上)【その他親族】
- ・近くの施設にお願いしたとき、問題行動などがあって短期で帰された時には涙が出た。「施設側の都合で入所者が選ばれる」と感じている。(介護療養型医療施設、女性、85～89歳)【娘・息子の配偶者】

入院してしまったときに退所を余儀なくされることへの不安・不満：5件

- ・3か月以上入院すると老人ホームを出されてしまう。一番の不安である。(特別養護老人ホーム、男性、70～74歳)【配偶者(夫または妻)】
- ・現在入所している特別養護老人ホームで、今後本人が急な病気で病院に入院した場合、1か月以上だとホームに戻ってこられなくなり、療養型の病院に転院しなければならないと聞いた。戻ってこられないのはとても不満である。(特別養護老人ホーム、女性、80～84歳)【娘】

入所期間への不満：4件

- ・ 老人保健施設には入所期間があるようだが、年をとると同じ所の方が落ち着いて生活できると思うので、長く入所できるようにして欲しい。特別養護老人ホームに申し込みをしても、なかなか入所できないので。(老人保健施設、女性、85～89歳)【娘】

将来への不安・思い：2件

- ・ 自分も将来認知症になるかもしれない。軽度の認知症は仕方がないと思う。周りの人がやさしく見守ってやったらよい。でもひどくなったらやはり病気なので、施設に入所させてもらいたい。もう一回目の自分の人生は終わったのだから、残りの人生は子供たちに面倒をかけないでホームで終わりたい。(特別養護老人ホーム、女性、85～89歳)【娘・息子の配偶者】

その他：2件

- ・ これからも頑張っていたきたい。(特別養護老人ホーム、男性、65～69歳)【息子】